

平成30年度 第2回 山梨県教員育成協議会 会議録

I 日時：平成30年11月27日（火）午前10時00分～11時10分

II 場所：山梨県防災新館 401 会議室

III 出席者

委員 8人（敬称略）

小島良一（議長）、中村和彦、池田充裕、廣田健、津久井豊徳、井上敬典、田口尚弥、藤川健

事務局 15人

高校教育監、義務教育監、総務課長、総合教育センター所長、学力向上対策監、義務教育課長、高校教育課長、高校改革・特別支援教育課長、スポーツ健康課長代理、総合教育センター次長、総合教育センター研修指導課長、総合教育センター主幹指導主事、総務課課長補佐、総務課副主幹、総務課主査

IV 傍聴者などの数 なし

V 会議概要

1 開会

2 教育次長あいさつ

教員育成指標とそれに基づく研修計画に沿いまして、これまで総合教育センターや各課で行っております各種の研修を滞りなく進めております。多くの教員が受講いたしましたセンターの夏期休業中の研修は大変盛況でかつ有意義であったと伺っております。今年度は教育の方向性を示す新たな計画を策定しており、その計画におきましても、教員育成指標の活用や、大学などとの連携による研修の充実といったもの、そして教員の資質能力の向上を図ることを検討しております。

本日の協議会は、これまでの上半期の研修状況、成果や課題について報告するとともに、来年度の研修につきまして、教員育成指標と研修計画も参考にしながら、委員の皆様からご意見やご助言を賜りたいと考えております。

3 報告

（1）第1回山梨県教員育成協議会議事録について

事務局

第1回の教員育成協議会の議事録に関して簡単に報告をさせていただきます。

お手元の資料3ページでございますけども、5月21日に今年度第1回協議会が行われました。

この協議会では主に昨年策定した山梨教員育成指標それに基づく研修計画について、報告をさせていただいたところでございます。

それから、すでに教育委員会のホームページ掲載されておりますのでご覧なっているかと思いますが、そこにありますような形で育成指標の研修計画等について委員の皆様からのご意見を伺ったところです。

その中で1点、養護教諭の後補充について人的な配置をお願いしたいと要望をい

ただいたところす。

担当に確認をしてみたところすけども、やはり普通の教員の場合には担任をしていたり授業もしたりということで、直接多くの生徒に影響が出てしまうということもあり、現在の人的な後補充をしているところすけれども、養護教諭の場合は、直ちに多くの児童生徒への影響があるわけではなく、なかなか予算的な面でも、厳しい状況であるということで、その件に関しては、教諭の初任者のような後補充はできないということでご了承願えればと思っております。

その他のことについても第1回の内容を載せさせていただきましたのでご覧いただければと思っております。

第1回の議事録という形で報告とさせていただきますと思います。

4 議事

(1)「平成30年度研修」の成果と課題について

事務局

平成30年度の研修についての成果と課題についてご報告申し上げます。

平成29年11月山梨教員育成指標の策定により、平成30年度からの総合教育センターの研修体系と研修内容も大きく変え今年度スタートしてございます。

すでに現段階においては、大方の研修が終了しております。

年度末にまた詳細なご報告をいたしますが、今回は年度中途段階での報告ということでご了解ください。

本年度の主な変更点は3点です。

まずはカリキュラム内容を大きく変更いたしました。

従前の研修に比べまして教員育成指標の項目に基づいたものに変更し、研修の内容等がわかりやすく、対象キャリアステージがしっかりと移行できるような体制をつくりスタートしてございます。

二つ目として実施形態を変更いたしました。

これまで必修研修として用意していた研修は大きな目標ですから、これらの研修を当然受講してもらいますが、希望研修を充実させてスタートしました。

また、1日研修ではこれまでちょっと受講が厳しかったという声もありましたので、半日研修として受講しやすいものとしたしました。

三つ目として、講義内容自体を充実させました。

全国レベルの講師、例えば文科省などの研修で、講師を勤めていらっしゃる全国の先生方、実力のある先生方を招聘できたところでございます。

また、新学習指導要領の内容に沿ったもの、それらを踏まえた研修としたことでも内容の充実を図ってございます。

次に、今年度の成果です。

まず、研修内容が焦点化されたことで、それぞれの先生方のとるべき研修がはっきりとしました。

それぞれの研修の定員を見直したこともあり、定員充足率が非常に向上したこと、受講者数も増加しました。

ここでいう受講者数は6月時点における申込者数ということで算出してございます。

次に内容での成果でございます。

それぞれの研修の受講後に研修受講アンケートをとっていますが、それらの満足度が高い割合となっております。

資料に記載しました項目について説明申し上げます。

研修の事後アンケートの結果によると、研修の満足度が高いという割合が全体で90%以上と高い結果となっています。

さらに具体的に、記述による内容を書いてもらっていますが、特に今年度からスタートしましたリーダー研修が45才以上の先生など対象としたサードステージの先生方ということになります。法律など様々な視点から学校経営が行われているということがよくわかった等の声が多く書かれていました。また、半日研修が多くなったことで、研修に参加しやすくなった。等の声が多く書かれていました。

さらに防災教育の研修会のアンケート結果には、講師の先生が直接その災害対策に関わっていらっしゃったので、まさに現場にいるような臨場感や緊迫感を感じることができ、非常に貴重な時間だった。という感想がありました。これは大川小学校事故調査委員会の委員長、首藤先生を招聘した研修でございました。

さらに、それぞれの研修会の資料がすばらしく、講師の説明もわかりやすかったという声が多く書かれています。

まだ詳細の分析は年度中途のため進めてはいませんが、現時点で来年度の研修を企画する上でも検証する必要がありますので、すべての担当者の先生方に研修を振り返ってもらっています。

最後に年度途中の現時点ですが、ここまでの中で、課題として4点示させて、いただきました。

まず1点目、昨年度、急遽山梨教員等育成指標の項目に基づいて、平成30年度の研修体系から内容まで作り上げたところがございますけれども、さらに育成指標に基づく研修を充実していかなければならないという点です。

また三つのキャリアステージに応じた研修体系が明確化されていない部分もありますから、研修体系に即した研修の充実を目指していくことは、今年度スタートした段階での課題であると思っています。

19ページをご参照ください。これが育成指標一覧表でございます。

一番上の部分に、教職としての素養がございますが、平成30年度の研修の中にはこの素養に関する研修が実は用意されてございませんでした。

この素養の部分についての研修が不足してございますので、平成31年度以降は教員としての素養に関する研修を新たに設ける必要があると実感してございます。また、先ほども触れましたリーダー研修の中に学校経営に関わることばかりではなくて、学校経営全体を俯瞰できるような素養を身につけていただけるように、リーダー研修の中にも盛り込む必要があるということを今年度実施した中で感じているところでございます。

教員の多忙化解消という観点もございしますが、当然研修は必要なものですから、必要な項目については、先生方には、研修をしてもらう必要性がありますが、多忙感を減らすためにバランスを取りながら、研修計画を立案していく必要があると思います。

その中で法定研修について説明いたします。

初任者研修につきましては、平成30年度からすでにいくつか日程を減らしてございます。必要の中でも、学校の中に戻せる研修については学校現場でということ考えております。さらに、平成31年度についても減らしていく方向で考えていますが、これにも限界があります。

中堅教員等資質向上研修については、今年度から10年目研修をリニューアルした形になっています。この内容についてはかなり整理選択しました。他の研修等との重なりも配慮しながら30年度からスタートしたわけですが、さらに内容

深める必要があると考えております。

3点目の課題は、各学校の先生方に、研修の体系と内容がさらに充実し、受講しやすくなったということを周知徹底する必要があるということです。

4点目の課題は、従前は本庁各課で実施していた研修を、平成30年度から、研修のセンターへの一元化という名目の下、調整しているところでございます。今後も、各課と調整をしながら進めていこうと考えております。

以上、中間での報告となりますけれども、平成30年の成果と課題について報告させていただきました。

委員

今年度のセンターの研修は、先生方に聞くと、すごく評判が良かったと思います。

特に半日研修は学校の指導体制から見ても非常に指導体制が組みやすいと感じました。中には定数を超えて受講できなかった先生がいると聞いたことがあり、それほどセンターの研修に対する期待というのが非常に高いと感じました。

あと初任研の日数の2日間の外部研修の中で、確か民間企業とか、社会福祉施設、などの研修が10月にあったと思うのですが、福祉施設については、介護体験等で、大学時代に経験されている先生が多いので、改めてここで行く必要があるのかなという感想を持っております。

事務局

まず1点目について、特に夏休みの研修で、研修会の予定がびっちり、どうしても研修会の場所を変えられなかった。あとは、研修内容によって、例えば班別のワーキングがあった場合に制限もあったという点で、運営する側でも問題になりまして、定員の見直しなども含めて見直します。

福祉体験については、実際、小中高では総合的な学習等や、大学の授業などでもやっているという声がありましたので、日程を減らすような見直しをしているところです。

議長

受講率が非常に高い反面、研修を行うセンターなどもいろいろ工夫をしているところですが、なかなかできないということですね、今後も受講希望者が受講できるように進めて参りたいと思います。

委員

1点目、文科省の新しい事業が大学で受託できまして、教員の養成採用研修の一体改革事業と言いまして、認可が出たのが5月でしたので、6月7月ぐらいから教育委員会事務局や教育事務所の先生方にご協力いただいて、新任の先生方の研修に大学の教員が出向いて授業を見せていただいて一緒に討議を行うと、来年度もぜひ継続したいと思い、予算申請をしたいと思っております。

それも含めて、大学の資源をどんどん利用していく方向で進めていただければありがたいと思っております。

教員養成学部・大学も大きな転換の時期に来ていまして、やはり現場の先生方の実践を見せていただくことは、非常に我々にとっても大事になってくると思います。

もう1点は、来年の4月から教職大学院の拡充について、先生方にはお世話になりました。

非常に優秀な小中の先生方、14名を推薦いただきまして、24日の土曜日、試験をさせていただきました。

教職大学院に現職の先生方がいらしていただく。ストレートマスターと言いまして、学部から上がっていく学生とともに学ばしていただく。これからの使命は養成だけでなく、教員養成大学ではなく教員育成大学になっていくと思います。

養成と研修の一体化というのは非常に大事だと思いますので、できれば我々のカリキュラムですね、教員養成の大学のカリキュラムと研修を一体化して効率よくするということが大事になってくるのかなと思います。

事務局

大学の先生の資源を、ぜひ活用せよということでございますが、非常にありがたいお話です。

いろいろな研修の中でも講師として地元の先生方を活用させていただいていますが、特に今年度から開始した中堅研においては、地元大学と連携をとりつつ進めています。今後もそのような連携を深めていく必要があります。

さらにその内容については今の先生のお話があったように活用させていただきたいと思っております。

2点目につきましては、了解いたしました。

そのように進めていきたいと思っております。

先ほど私も申しましたように県の教育振興プランが策定されています。この中でも目指すところとして盛り込まれています。

(2)「平成31年度研修」の企画について

事務局

15ページの資料をご覧ください。

総合教育センターでは平成31年度の研修について現在企画中でございます。

これまでの整備としましては、まず最初に総合教育センターの基本計画の中におけるそれぞれの研修の位置づけを確認し、研修の指標である教員等育成指標に基づいた研修を企画するよう、全所員で確認しました。

確かな情報発信源としての総合教育センターとして、学校の先生方が授業にすぐに反映できるように、子供たちすぐに反映できるような研修を企画すること、そして、学校経営についても、地域の皆様、保護者の皆様と協力して連携が取れるような研修を企画すること、さらに、そのための資質能力を高めていくような研修を構築していくということを目指してございます。

また、先ほどの研修の成果と課題でも申しましたように、焦点化した研修をきちんと構築していくことが使命だと考えて、平成31年度の研修企画をスタートしました。

また、センターへの研修の一元化ということで調整を図りながら、研修会を整理してキャリアステージごとの完成度を目指していきます。

講師の先生の評価、運営担当の先生方からの研修会の評価、活用状況アンケートなどを基にした評価等を研修会評価の基本として研修会の企画を進め、変更や改廃を行っていきながら、さらにその精度を高めていこうと考えています。

また、研修の周知については、センターからのメールマガジンやセンター便り

等々を使い、そのほかの各課でされているいろいろな会議・講習会等々の場を借りまして徹底を図っていきたくと考えております。

9月末において、多くの研修が終了しましたので、研修運営担当者に研修のまとめとして事後アンケート等をもとに今年度の研修の評価をしてもらっています。

それを受けまして、平成31年度の研修企画の作業に入っています。教科や領域の内容の近い研修運営担当者をグループに分け、ワーキンググループを編成し、研修内容や体系について協同して検討を進めているところであります。

現段階では、定員・日程・会場等の大枠を決定していきまして、今後は講師の選定になります。その後、年明けには仮の要項を作成しまして、最終的には3月上旬には各学校に研修表を配布する予定でございます。

また、法定研修の初任者研修と中堅教諭資質向上研修においても同様の作業を進めています。本日、委員の皆様から御意見を頂き、来年度の計画に反映させていきたいと考えております。また、これらの研修についての詳しい報告につきましては、第3回の協議会において行います。

以上、このような考えの下、平成31年度の研修企画を進めております。

議長

皆様には第1回の協議会で育成指標と研修計画をお配りしてございます。研修内容が仕様に合っていない場合であるとか、ステージによって当てはまる研修はないという問題もあるかもしれません。

そういった点も含めまして、来年度の研修に向けてご意見がありましたらお願いいたします。

委員

来年度の免許更新講習についてお伺いしたいと思います。

ご承知の通り、一回り目が終わりにして、二回り目に入るという中で、来年度は、たくさんの先生が免許更新講習を受けるということ聞いております。県として各大学へのコーディネートを行う予定があるのか。もう一つは、来年、全部の先生方を賄い切れるのか、大学の方も自信がないところがございます。

二回り目に加えて、こども園がたくさん出来て保育士資格で各勤務なさっていた先生が、幼稚園の免許を特例制度期間に更新しなければならないこともあって、本来来年度、1.5倍もしくはそれ以上の受講者になるとお聞きしておりまして、我々も最大限が努力しようとしているのですけれども、施設人員の問題もございまして、若干の不安があります。

今年度も食育等、センターの方で講習を開いてはいただいておりますが、特に幼稚園に関して、ご協力ご支援いただけるかどうかということで少しお伺いしたいと思います。

事務局

お答えできる内容についてお答えするという事で御了承願います。

免許更新講習については、今年度から始まった中堅教諭資質向上研修の中で、読み替えの対応をしています。

次の幼稚園教諭等の研修についてでございますが、実はこの教員等育成指標の中には、幼稚園教諭等の指標がありませんので、センターでも幼稚園教諭の研修を用意してはございません。

池田先生のご指摘については現段階においては、この協議会として、お話をお聞きし今後検討していくということによろしいでしょうか。

議長

幼稚園教育の件ですけれども、今事務局から話がありましたように、検討させていただくということで、またご相談をさせていただきます。是非よろしく願います。

委員

県内ほとんど私立ばかりなものですから、公立というところから見ると落ちてしまうことがあるかもしれませんが、先生方から、来年度の予約は取れますかとか、必死な状況でありまして、もしもこの県で一つ二つ講座を設けていただけるとありがたいかなと思ってお話させていただきました。よろしく願います。

委員

中堅教諭等の研修ですが、1年間という限定された期間じゃなくて比較的ゆったりとした複数年度に跨っての研修にいただいたお陰で、多様な教員がいろんな家庭環境を抱えてい中で、非常にゆったりとした状態の中で研修をさせていただいていることに感謝しています。そういった声を教員から、私のところいただいております。

それから初任研については、日数削減も含め対応していただいておりますが、報告書作成等に時間がかかっておりまして、今年度から出退勤の記録をさせていることもあり、膨大な時間がそれに費やされている実態があります。

当然振り返りは必要ですが、もう少し多様な視点で負担軽減できることはないか検討していただけたらと思っています。

来年度の研修の中で受講者の当事者意識を高めることは、まさにその通りだと思うのですが、総合教育センターで実施する研修以外に、実は各小中学校では校内研究がされています。

小・中学校で言いますと、義務教育課やセンターの指導主事にもご協力をいただき研修をしています。

研修は実践に繋がっていかなければ研修の意味はないわけで、研修したことが授業改善に繋がっていると、そういった形で還元されていかなければいけないのかなと捉えていて、そういった意味で言いますと校内研究をサポートしていただくことはとても大きな意味があるのかなと。

1人の意識改革ではなくて、学校全体の意識改革がそこで促されるといったことが大きいのかなと思っています。今後、校内研修のサポート体制の強化みたいな視点で取り組まれる予定があれば教えていただければと思っています。

事務局

まず、中堅研についての、ご意見ありがとうございました。

ご指摘の通り、本年度より育成指標に基づき、これまでの10年目研修をリニューアルして、先生方が受講しやすくなりました。経験10年目の先生方を対象として5年間の期間での受講体制としました。学校の先生方から勤務状況や家庭状況に応じた受講がしやすくなったというお声があるということで、非常にうれしくありがたく感じます。

また、初任者研修の報告書等につきましては、実は年々軽減化を図ってきたところではありますが、今後とも日程等も含め受講者の負担軽減と研修効果を考えに入れながら検討していく必要を感じております。

各学校における校内研究の支援については、特に小中学校において、今年度から、各学校への指導主事訪問とは別に、センター研究という形で指導主事がチームを作って校内研修を支援する体制を構築しております。これらの各学校への支援体制は、総合教育センター全体の役割であると認識しております。

以上でございます。

委員

ぜひアウトリーチ型のサポートを総合教育センターや義務教育課も含めて、充実していただけるとありがたいと思います。

委員

最近グローバル化が進んでいる中で、子どもの権利条約とか、世界的な動向があると思います。これまでは我が国という関係でしたけど、子どもの権利条約の場合ですと、ほぼすべての国が締結をしている状況でございますので、外国から様々な影響を受けたり、或いはそこで交流して戻ってくることがあると、その学校の運営の仕方の基準だとか違和感を感じたりすると思うんですね、そういうことも含めて、これまでの研修の中でいろんなことが入っているとと思いますけれども、基本的な素養など、子供達の権利のあり方っていうのを一つぐらいどこかに入れていく必要もあるかなと。

グローバル化になって本当にいろんな人が入ってくる。外国人もおりますし、日本人でも外国から帰ってきた子供たちがいますのでその観点を一つぐらい入れたほうが良いと思います。

事務局

子どもたちがおかれている現状は、ご指摘の通り難しい状況にあると思います。人権教育関係の研修については、初任研の中に講座を設けていますが、教員の素養としての設定が必要であると感じています。

実は来年度の研修計画の中に既に設定をしているところでございますが、育成指標の教職としての素養の部分の研修として、人権教育に関するものを企画中でございます。是非多くの先生方に受講していただけるように進めていきます。

(3) 「リーダー研修」について

事務局

まず全体の中でリーダー研修の位置付けをご覧いただきたいと思いますので、A3版の大きな紙の緑色で始まっているところをご覧いただければと思います。

「山梨学び続ける教師のためのポートフォリオ」と書いてあるページですが、これの上の緑の部分、これが研修体系図ということで育成指標に入れてあるものでございます。

この中で左から経験年数1年目、23歳から始めまして、5年経ったところで5年経験者研修、続きまして、免許更新講習、中堅教諭等資質向上研修というふうに入っております。初任者研修と中堅教諭等資質向上研修、これは法定研修ですので、

すべての教員が受けなければならないものというふうになっております。同じく免許状更新講習が十年に一度配置されております。5年経験者研修というのは山梨県独自のものです、これもすべての教員に受講することを義務づけております。

こうやってみていただきますと、最後に10年目42歳の時に教員免許状更新講習が終わってから研修がぼっかりあいています。最初5年間をステージ1それから次の15年をステージ2、そのあと46歳以降をステージ3とした時に、ステージ3のところで、教員が取る研修がないということで、昨年度リーダー研修をここに置かせていただきました。

それでは18ページの方をご覧ください。

背景としまして、教員の育成指標に基づき、ステージに応じた研修内容など新たな体系を構築するとともに、多忙化改善の中で質の高い研修を工夫する必要があるということ。

それから二つ目。教員の高齢化が進む状況においては、40代から50代の教員が積極的に学校運営に参画し、若手教員の目指す教員像を示すことが期待され、モデルとなっていただきたいということ。

三つ目。学校教育を俯瞰し、自らの教員としての使命を再認識することを通じて教育課題に関わったり、学校運営に対する意欲を持ったリーダーの育成が期待されるということです。

そういうことを含めまして、平成30年度リーダー研修というのを置きました。

必修研修としましては、従来ありました新教務主任研修、生徒指導主事・新生徒指導主任研修会。中学・高校・特別支援学校の新学年主任・新学部主事研修会を必修研修としまして、その他に選択研修としてキャリア教育、学校運営－教育課程、学校運営－連携協働、学校運営－学校安全についての研修会を作りました。

この四つの研修会につきましては19ページの教員育成指標一覧表の方で、第3ステージの枠に対してハイライトされている部分、これがキャリア教育、教育課程、連携協働、学校安全ということですので、これに対応した講座ということで研修を設けておりました。

18ページの方へ戻ります。

選択研修のところで教務の仕事についてそれから生徒指導の仕事についてということで、見え消しになっておりますが、これは必修研修の新教務主任研修会を一般の先生方も受けられるように、希望でも受けられるようにということで、開設した講座ですので、名前はついておりますが中身は新教務主任研修と一緒にということでさせていただいております。

本年度実施してみてもですが、来年度どうしようかというようなことも含めて、必修研修は毎年実施し、選択研修は次の選択研修A Bを隔年で実施するようにはどうかというふうなことで、現状を考えてございます。

選択研修としては教職としての専門性に関わる部分、本年度やった内容、それに対して選択研修Bとして教職としての素養に関わる部分ということになります。

先ほどの大きなポートフォリオの方へ戻っていただきますと、最初緑色で研修体系がありまして、その下に教職としての素養、社会人として、教職として、ということで、ピンクの欄がございます。

こちらの方が教職としての素養で人間性に関わる部分、その下にブルーで学習指導から始まりまして、生徒指導、キャリア教育、特別支援教育、学校運営、新たな教育課題が載っております。

こちらが教職としての専門性に関わる部分ということになります。

教育公務員特例法の方でも、「教員は使命を深く自覚し、絶えず研究と修養に励

み」というふうに言われております。

研究の研と修養の修と併せまして研修というふうに銘打っております。

研究というのは学問的な事項、修養というのは人格の完成を目指すものですので、ここで言います専門性、それから素養ということになるかと思えます。

それらを交互にやっていけたらなというふうに思っております。

二番になります。選択研修Bの対象者として、40代50代の教員を対象としてある程度人数を絞っていきたいなと思っております。今年度それぞれの研修会は90名程度が受講していただいております。基本的には希望者ということになりますが、なかなか難しい場合には説明に回しまして校長先生に働きかけをお願いしたいなというふうに思っております。

三番目、選択研修Bの概要についてですが、学校教育の目的について考えていただくとか、教員の使命と職責について考えていただくとか、大学生や高校生に教育教職の魅力を発信する取り組みを通じて教員としての自己の資質を再確認するような内容を、後述しますが、「フォーラム山梨県で学校の先生になろう」というようなものも考えておりますので、そういったあたりの運営をすることによって自分自身のあり方を考えていただく。こんなことを概ね考えてございます。

成果の普及としては、研修のまとめレポートを出していただいたり、研修の概要をセンターだよりも臨時増刊号として全教員に配布するようなことで、成果をすべての教員で共有していきたいというふうに思っております。

今年度リーダー研修の位置付け、それから本年度実施してみようということ、それから来年度概ねこんな方向でいきたいということでここでは、ご報告させていただきたいと思っておりますので、この後まだ来年度につきましては計画段階ですので、先生方にご意見をいただきまして次年度の計画に反映していきたいと思っておりますので、ご意見をお願いしたいと思っております。

以上です。

委員

現場で先生と面談をする中で、20代30代の教員が非常に研修の成果が出て、すばらしい活躍をしてくる教員が多い一方、やはり50代、本校は非常に多いんですけども、50代半ばぐらいになりますと、それまでの教職経験もありますし、安定した勤務ぶりではありますけれども、若干物足りなさも感じます。

そのため、リーダー研修を体系づけ、40代半ばぐらいで考えていただいて、その後また頑張ってもらおうようなきっかけとして非常にありがたいなと感じています。

そしてポर्टフォリオの年齢が65歳まで書かれているように、間もなく定年延長が始まる訳で、さらにそのあと50代半ばからあと十年頑張れるような研修といったものも将来的には考えていただけないのかなと思っております。

学校管理職の採用の年齢構成についても、定年延長が確定したところで考える必要があるかなと考えております。

事務局

はい、ありがとうございます。

そういうことも、先々のことで考えていきたいと思っております。

ありがとうございます。

(4) 研修履歴票(やまなし「学び続ける教師」のためのポートフォリオ) について

事務局

これは前回の第1回の協議会で出したものということになります。A3版の大きなものになります。

先ほど見ていただきました通り上の段に研修体系そして経験年数が今、一応、60歳までということになっていますが65歳までの表で作ってございます。

その下の欄で数字が入っておりますがここに受講した研修番号を入れていただいて、下の方がポートフォリオの形で研修を受けて思ったことを書き込めるような形です。裏面に受講記録をつくりまして、2010、2013というのは受講した年度でございます。これに2012のところがありますが、「249 英授改善」というような、略称ではございますが、受講した科目名を入れるような形で考えてございます。エクセルのシートになりますので、裏面の方は2枚目のシートというような形になると思いますが、これを教育センターのホームページ上で公開して各校の先生に使っていただければと考えております。

前回ここまでお話をさせていただきましたとその後山梨大学へ行きまして堀先生、中村先生の方で幾つかご意見をいただいております。そういった辺りも含めて、またもう少し詰めさせていただきますと思います。

今回これにつきましては進捗状況ということでここまでの報告です。

以上です。

委員

私の知る限り、全国の都道府県、政令都市の育成指標の学びの振り返りとして、生涯を通じてポートフォリオを利用するというのをきちんと考えているのは山梨県だけだと。そういう意味では、こういったものを山梨県の教育委員会で作られると他の都道府県にも普及するのかなと思っています。

一緒に考えさせて頂きましたが、もともとポートフォリオというのは、よく使われる単元や、或いはその一つの研修会の中で利用するのが主でしたので、生涯にわたるものは非常に難しいところはあるのですが、ぜひ検討を重ねながら良いものを作っていけば良いなど。もちろん協力を全面的にさせていただきたいと思っています。

もう1点はですね、先ほどちょっとお話ししました、教員の養成等研修一体型事業の中で、もう一つ今年度から始めさせていただいたのは、若手の学習会をやらせていただいております。

10月からですね1月にわたって月に1回これも高校教育課それから義務教育課

の皆さんにお世話になって四つの教育事務所単位でこのOPPAのシートを実際に使ってみるという研修を短時間ですけども、1時間半から2時間にわたってやらしていただいています。

10月に峡東それから11月に峡南で大体50名ぐらいの先生方に出席いただいて、非常に有意義な会議で、非常に高い評価をいただいて、言いたいことは、このOPPAそのものを、まだなかなか先生方がご存知ないと。

これをどうやって普及していくのか、これを例えば、最終的には、個人で総合教育センターのHPから出したものを管理していくんでしょうが、まずOPPAってなんだろうっていうのも、多分知らない方がかなりいらっしゃる。それをOPPAとはこんな効果があるんだよと、一番大事なところは子供と教師の一体化した振り返りがOPPAの目的でして、自分自身がキャリアステージや研修の中でどういうふうに自分の主体的なテーマに変わったか、見方がどう変わったかということが大事になってくると思うのですね。

先ほどご紹介させていただいた若手の研修会と言っても実際、若手以外の第2ステージ、第3ステージの先生が多くいらっしゃっていただいていますし、これを是非広めていきたいと思います。

これをまた来年度大学から予算要求したいと思っていますが、これもぜひ一緒に、個人的には若手という言葉をとってOPPA研修会にして県内の出来るだけ多くの先生方が出ていただき、普及波及していけばいいのかなと思っています。

もう一つは、せっかく先ほどからご説明いただいているいろんな研修の中でできるだけこのOPPAを使ってみるという、これでまた普及は大きく広がっていくと。

せっかくこういうものを作った時に、県内の先生方が良かったと、これで自分の教員としてのモチベーションが高まったと思えるものを作っていくことが非常に大事だと思っていますので、ぜひ一緒に検討させていただければと思っています。

事務局

ぜひ協力をお願いしたいと思います。

それから普及方法ということについてなんですけど、やはりここまでものができてきますと、あとは使用事例だとか、使ってみて有効だったということのをいかに広めていくかということになりますので、昨年の例で言いますと高校の方で教頭先生が自校の中堅研修の対象の教員に、OPPAを使って指導したという事例もあるようです。同じくこれも校長先生方に使っていただくような形で、良い事例がありましたらそれを事例発表の形で、広めていきたいというふうに考えております。

(5) その他

なし

5 連絡

○フォーラム「山梨県で学校の先生になろう」について

事務局

総合教育センターの次長の小尾と申します。よろしくお願いたします。

資料の一番最後のページ 20 ページをご覧ください。

今、当センターではフォーラム「山梨県で学校の先生になろう」というようなことを、構想中でございます。

このフォーラムの目的についてでございますが、県内の高校生や県内外の大学生を対象に、実際に教員になることに向け、意欲を高めることを目的としたいと思います。

仮称ではありますが、「山梨県で学校の先生になろう」というようなフォーラムを今構想している段階でございます。

日時であります、来年の 9 月のいずれかの土日に開催したいと考えております。

会場の方は、本センターもしくは高校生や大学生の交通の便を考えまして、県立図書館等も含めまして開催できたらなと思っております。

主な研修の内容ですけれども、教員としての人生を考えたり、教員生活の実際の姿をビデオで見たり、そのような研修とそれから教員免許の取得方法や、山梨県の教員採用状況について考える機会、というような内容を考えております。

形態ですけれども、座談会ですとか、パネルディスカッション、ビデオ視聴等含めて研修の内容を今考えている段階でございますので、いろいろなご意見、お知恵も拝借したいと考えております。

まだまだ構想段階でございますが、今のようなことを考えているということで連絡をさせていただきます。

以上でございます。

委員

来場した学生たちにとってはワークショップだとか、或いは場合によっては自分の思いを語り合うような小グループでの話し合いみたいなものを少し入れた方が、意欲を持って来てくれる学生は、なおさらそういう仲間ができたり語り合う人達が出てくる方が定着をしていくと思うので、何かそれをちょっとだけ入れていただくとうろしいかなと思いました。

○今後の日程等について

事務局

第 3 回目の教員育成協議会でございますけれども、現在 2 月の上旬を予定して

おります。

先ほどセンターの方から初任研、それから中堅教員等資質向上研修の報告を、第3回の協議会の方でさせていただくというような話がありましたが、ちょうど1月末あたりをめどに、それぞれの研修が一段落し、閉校式を迎えますので、それが終わったところでその報告をまとめさせていただければと考えております。そのため、2月上旬の、できましたら、2月4日月曜日から8日の金曜日までの第2週目に開催することを今考えているところでございますけれども、事務局としては一応2月8日の金曜日の午前中を第1案という形で考えております。もうすでにこの日に予定が入っている方がいらっしゃいましたら、教えていただければありがたいのですが、いかがでしょうか。

委員

2月8日の金曜日は、校長会が予定されています。ただ、校長会は午後からですので、午前中の開催でしたら、大丈夫です。

事務局

それでは2月8日の午前中、多分本日と同じ形で、午前10時から、この防災新館会議室で開催させていただきたいと思っておりますので、予定の方を入れておいていただきたいと思っております。

よろしく願いいたします。

7 閉会